

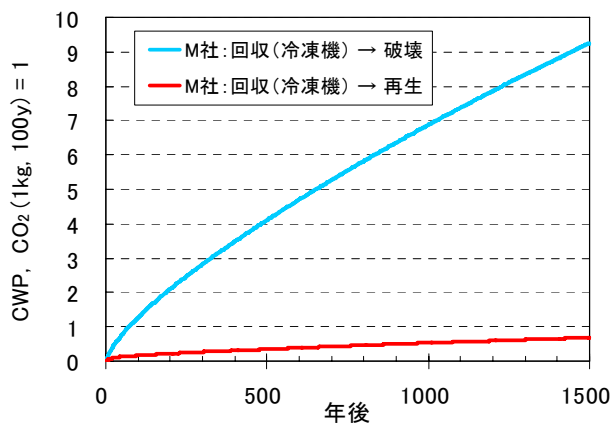
# 回収フルオロカーボン処理の環境性能について

三井・デュポンフロロケミカル(株)

## 持続可能社会の構築のために

デュボングループでは、持続可能な社会の構築のために地球環境問題にも積極的に取り組んでいます。  
当社が実施している回収フルオロカーボンの適正処理に関して、独立行政法人 産業総合研究所（環境化学技術研究部門 統括研究員 関屋 章 工学博士）と共同研究を行い温暖化評価を実施しました。

回収冷媒の処理に要する温暖化ガス排出のCWP評価



関屋 章、第31回フッ素化学討論会、O-21、2007、10、26  
CWP: Composite Warming Potential  
GWP100年値で欠けている時間変化での温暖化を表示できる評価法



【関屋 章 工学博士のコメント】

製品の開発、使用、後処理は科学的評価に基づき進めることが社会貢献への道筋である。

## 回収フロン22の破壊処理と再資源化処理について

温暖化評価の結果、回収冷媒R22の適正処理に関して、破壊処理よりも再資源化処理(蒸留精製)が大きな差で優れていることが判りました。  
上記のCWP評価の通り、その温暖化の影響は100年間で8倍、500年間では12倍もの差が生じます。

## 地球環境の保護と共に循環型社会の形成に貢献します

当社は、回収冷媒R22の再資源化処理(蒸留精製)を行い、フッ素樹脂製造の原材料として再利用しています。ただし、このフッ素樹脂化は、R22の分子が消失するため実質的に破壊処理となりますが、R22を構成していたフッ素と炭素は廃棄されることなくフッ素樹脂の一部として活用されます。  
このように回収したR22を破壊せず再資源化することは、貴重な天然資源(フッ素)の有効活用に資するばかりでなく、地球環境の保全に大いに寄与するものです。



三井・デュポンフロロケミカル株式会社

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-5-18  
ケミカルス 回収フロン処理事業 TEL (03) 5281-5805